

『就実論叢』第45号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2016年2月29日 発行

# 子育て支援における男性保育者の役割に関する一考察

**Analysis on the Roles of Male Childcare Workers for Childcare Support**

柏 まり  
佐藤 和順

# 子育て支援における男性保育者の役割に関する一考察

Analysis on the Roles of Male Childcare Workers for Childcare Support

柏 まり (就実大学 初等教育学科)

佐藤 和順 (岡山県立大学 保健福祉学科)

## I. 問題の所在

わが国では、子育てに係る負担の大部分を母親が担っている。母親に対する育児負担の偏りについては、平成26年度に内閣府が実施した育児休業取得率に関する調査で示された結果<sup>注1)</sup>をみても、女性の育児休暇取得率が86.6%に対し、男性の育児休暇取得率は2.30%と、母親の負担が大きいことは明らかである。また、閉鎖的な母子関係を指摘する母子カプセルの問題にみられるように、母親の孤立化が育児ストレスや児童虐待の一因との指摘もある。さらに、母親に対する育児負担の偏りは、女性が子どもを産み育てる事への不安や負担感を増大させ、出生率低下の要因となっている。こうした社会的背景から、子育て期の父親の育児参加の促進を新たな観点とした子育て支援が求められている。

子育て支援を必要とする保護者のニーズは多様化し、延長保育・夜間保育、休日保育、病児・病後児保育など、子育て支援の拡充が求められている。保護者のニーズに合わせた子育て支援の裏面には、保護者の都合が優先された一時預かり、保護者のリフレッシュが目的とされた土曜日・休日保育の常習化及び、しつけや食生活等の生活習慣形成が保育施設任せの常態化等、子どもの最善の利益を保障した子育て支援とは言えない実態もある。

また、母親と同等に子どもの養育権を有する父親の育児や家事に携わる時間は1週間に1時間程度<sup>注2)</sup>と短く、育児に積極的に携わっているとは言えない現状である。そのため、子育て支援の拠点となる保育所の保育者が父親の視点に立ち、父親の育児に対する垣根を取り払い、育児への関心や育児参加の必要性への理解を深めることが重要である。

中田・前迫ら(2004)は、男性保育者が勤務する保育所に通う子どもの家庭は、父親の育児分担の比率や保育所への送迎率、保護者会などの参加率が、男性保育者のいない保育所に通う家庭よりも高くなる傾向があると述べており、父親の育児参加を促す役割を果たす者として、男性保育者の可能性について言及している<sup>1)</sup>。さらに、中田・前迫ら(2004)は、男性保育者としての性役割意識を越え成熟した男性保育者がジェンダーモデルとなり、共に働く保育者や勤務する保護者に与える性役割意識に与える効果について触れている<sup>2)</sup>。このように、男性保育者を核として、育児に対する性役割意識を軽減させる取り組みは、子育て支援の拡充につながるだけでなく、子どもの最善の利益を保障した子育て支援に寄与する研究と位置づけられる。

## Ⅱ. 研究の目的

本研究の具体的な目的は次の通りである。第一に、男性保育者に内在する役割意識に着目し、男性保育者の実践的省察を観点とした男性保育者の役割について把握を試みる。第二に、把握された男性保育者の役割に関する構成要素を基に、保育施設を拠点とした子育て支援に与える影響について分析し、子育て支援を支える男性保育者の役割モデルの構築を試みる。

これらの研究結果から得られた知見を通して、男性保育者がジェンダーモデルとして父親に与える影響について考察し、性役割意識を越えた男性保育者が子育て支援に与える影響について言及する。

## Ⅲ. 研究の方法

本研究は、第一に父親の育児支援の礎となる男性保育者の役割に関する先行研究を概観し、男性保育者の役割意識について分析を行い、子育て支援における男性保育者の役割に関する観点を把握する。第二に、把握された男性保育者の役割に関する観点を基に、男性保育者の実践資料集を手がかりとして、実践資料集に掲載されたドキュメント内容の分析を行い、子育て支援における男性保育者の役割モデルについて実践的な視野からの構築を試みる。

### 1. ドキュメント分析の資料

本研究は、全国男性保育者連絡会において発行された実践資料集を分析データとして用いることとした。

全国男性保育者連絡会は、1974年8月11日に、第6回全国保育団体合同研究集会において発足された。全国男性保育者連絡会は、現在18都道府県に発足している男性保育者連絡会を取りまとめている団体である。

本研究において、ドキュメント分析の資料とした「男性保育者 その実践と資料」は、1975年に第1号が発行され、1984年に第2号、1989年に第3号、2000年に第4号、2011年に第5号が発行されている。本研究では、発行された資料のうち最新である2011年に発行された「男性保育者～その実践と資料 NO.5～」(これより、実践資料集とする)<sup>3)</sup>を用いることとした。

全国男性保育者連絡会が発行する実践資料集の特徴は、次の通りである。

- ①男性保育者を取り巻く社会情勢や課題など情報の提示
- ②男性保育者が自らの保育実践を紹介
- ③男性保育者に関わる歴史的資料の提示

本研究では、②男性保育者が自らの保育実践を紹介、に関する内容に着目し、分析資料の精選を試みる。

## 2. ドキュメント分析の観点

本研究の分析の観点は、中田（2004）の「男性保育者による『保育者』定義のシーケンス」<sup>4)</sup>を基礎概念として用いることとした。柏・佐藤（2014）<sup>5)</sup>は、中田（2004）が示した保育者の定義が、シーケンスと言われる段階的学習の順序性を持つことに着目し、3つの観点の段階的様相を「男性保育者の段階的变化」として、図1のように図式化することを試みた。

本研究では、図1に示した「男性保育者の段階的变化」をドキュメント分析の観点として用いて、男性保育者の役割意識について分析を試みる。本研究におけるドキュメント分析の観点は、次の通りである。

観点1 「第二の家庭の父母」：身体を使う保育

観点2 「保育の偏りを是正する者」：男性の視点を強調した保育

観点3 「子どもの発達を促す者」：子どもの発達を促すための働きかけ

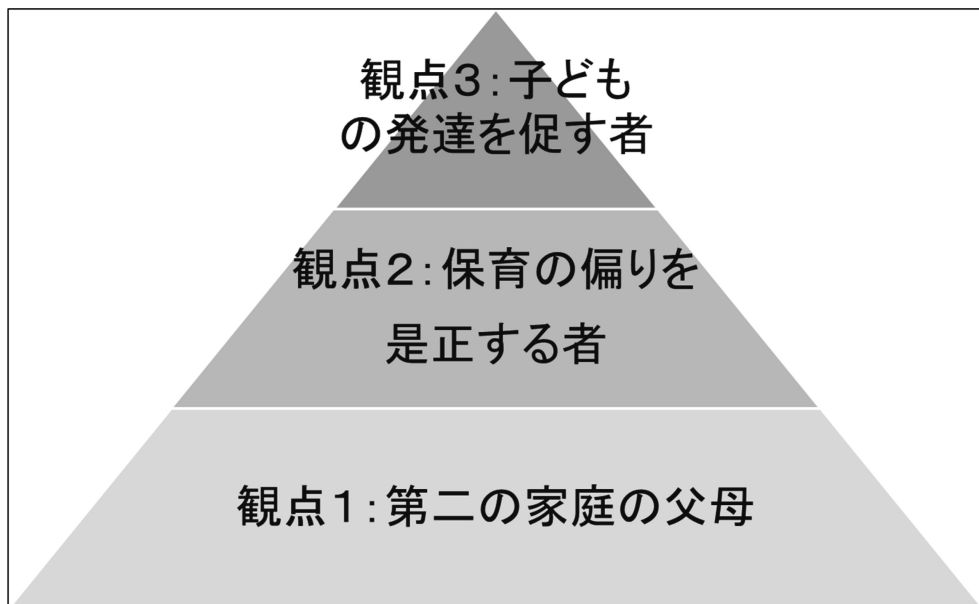


図1 男性保育者の段階的变化

参考：中田奈月「男性保育者による「保育者」の定義のシーケンス」家族社会学研究, 2004年を基に筆者が作図した。

#### IV. 結果と考察

##### (1) 実践資料集の精選結果

第一に，全国男性保育者連絡会が発行する実践資料集に示されている目次の内容を手がかりとして，実践資料集の概要について整理した。把握された概要は4部構成となっており，具体的内容は，次に示した通りである。

第1部「男性保育者に関する基礎資料」

第2部「各地域の現状報告」

第3部「テーマ報告」

第4部「編集後記」

次に，実践資料集から分析資料として用いる男性保育者の実践記録を精選するために，「男性保育者が自らの保育実践を紹介」する内容に着目し，実践資料集の第一次精選を行った結果，第3部「テーマ報告」を分析資料の対象として着目することとした。今回着目した，第3部「テーマ報告」に関する内容は，42のコラム及び6の楽曲で構成されており，コラムの内容を大別すると，①～⑤の5つの項目に分別された。

分別された項目は，以下に示した通りである。また，コラム及び楽曲数の内訳については，( )内に示した。

- ①世代を超えて (16)
- ②様々な視点から (6)
- ③楽曲 (6)
- ④男性保育者の実践 (15)
- ⑤一芸の活かし方 (5)

##### (2) ドキュメント分析の結果

実践資料集から「男性保育者が自らの保育実践を紹介」に関する内容として，42の実践コラムが，第3部「テーマ報告」に掲載されていた。実践資料から精選された42のコラムを対象として，「男性保育者の役割意識」に着目し，分析資料の抽出を試みた結果，4つのコラムが精選された。選出された4つの実践コラム題目は，以下に示した通りである。

- ①「男性ならではの子どもとの向き合い方」
- ②「父親が楽しみながら子育て参加へ」
- ③「一人の保育士として」
- ④「経営者から見た男性保育者」

選出された4つの実践コラムについて，「3. 研究の方法 (2)ドキュメント分析の観点」において，図1に示した「男性保育者の段階的変化」の3つの観点を基にドキュメント内容の分析を試みた。分析内容の詳細として，4つのコラムそれぞれに，男性保育者の役割が特徴的に把握された内容に焦点化し，解説を試みることにした。

i) A保育者のドキュメント分析の結果

観点1「第二の家庭の父母：身体を使う保育」

「男性ならではの子どもとの向き合い方」 A保育者

(前略)鬼ごっこや相撲ごっこ、かくれんぼなど体を使った遊びやサッカーやタッチラグビー、ドッチボールなどボールを使った遊び、鉄棒やマット、跳び箱などの体育遊具を使った遊びなど①a、時には一緒に冗談を言い合い子どもたちとのやり取りを楽しんだりしながら体を十分に動かし①b②a、リーダー的存在や子ども達にとって目標になれるような存在①c②b、魅力的な存在であり続けられるようにしてきました②c。次第にそれが「男性保育士として」の「自分らしい保育」につながってきたように思います。②d(中略)

ある日、鬼ごっこでつかまえた子ども達を持ち上げて「飛行機」「ぐるぐるジェットコースター」などの遊び①dをしていると、「僕もしてほしいな」というような表情をしながら、友だちの様子をみている姿がありました。そこで「〇〇くんも一緒にしよう」と誘いかけ抱き上げようとする、その子は嬉しそうにしながらも「いいよ、僕重たいやろ」と、どこか自分に引け目を感じているように感じました。私は「そんなん全然大丈夫!」と思いつ切りその子を抱き上げ肩車をしたり抱っこしたまま園庭を走り回ったりしながら遊びました①e。その時の嬉しそうな笑顔から、本当はして欲しいのだけれど様々な場面で「重たいから」と言われた経験や自ら身を引く経験を積み重ねて来たのだと感じました。

その子の心情に寄り添えた経験を通して、保育所における父親としての男性保育士の役割を感じる事ができました①f。体を動かし関わることで子ども達の運動面の成長につながるだけではなく、様々な家庭状況が背景にある中で男性ならではの「関わり方」や「心情との向き合い方」によって、子ども達の心情に寄り添い、心の成長を支える事ができたように感じました①g②f。(後略)

引用：全国男性保育者連絡会『男性保育者～その実践と資料 NO.5～』から抜粋し、筆者により下線および観点を示す番号を付記した。

A保育者のコラムは、①a～①g、に示されるように、観点1「第二の家庭の父母」を特徴的に示した内容である。特に、①f「保育所における父親としての男性保育士の役割を感じる事ができました」という言葉に象徴されるように、家庭と保育施設とを同一視している傾向があり、男性保育者の父親的な役割意識が特徴的に表れている。

また、観点1「第二の家庭の父母」は、男性保育者における保育者定義の第一段階に位置づけられており、身体を使う保育が特徴的である。A保育者のコラムには、①aに示されるように、「鬼ごっこ」「相撲」「かくれんぼ」などの体を使った遊び、「サッカー」「タッチラグビー」「ドッチボール」などのボール遊び、「鉄棒」「マット」「跳び箱」などの体育遊具を使った遊び、また、①d、①eに示された、「飛行機」「ジェットコースターぐるぐる」「抱っこ」「肩車」などの子どもを抱きかかえる遊びにみられるように、例示される遊びには、観点1に象徴される「身体を使った遊び」が列挙されている。

また、A保育者のコラムの内容には、②a～②fに示されるように、観点2「保育の偏りを是正する者」に関する役割意識についても把握することができた。観点2「保育の偏りを是正する者」としての役割意識は、保育者定義の第二段階に位置付けられており、ある程度

経験年数を重ねた保育者にみられる段階とされている。特に、女性保育者の保育とは異なった男性保育者としての視点を強調し、女性保育者の保育と重複しない男性独自の視点による保育を開拓しようとする。具体的には、②a「冗談を言い合い」、②b「リーダー的存在」など、女性保育者と子どもとの関係性の中では生成されにくい「童心にかえる」や「ガキ大将」的な部分を「男性の視点」として強調した保育が把握された。

これらのことから、段階一から段階二へと移行期にある男性保育者は、男性保育者ならではの父親的な役割に男性が保育者であるための必要性や価値を見出しつつも、女性保育者とは異なる方法で保育をしようと模索する姿が特徴として明らかとなった。

## ii) B保育者のドキュメント分析の結果

B保育者のコラムは、②a～②d、に示されるように、観点2「保育の偏りを是正する者」、に関する役割意識が特徴的に把握された内容である。観点2「保育の偏りを是正する者」は、男性保育者における保育者定義の第二段階に位置づけられており、その特徴は、第一段階とは異なり、家庭と保育施設とを同一視していないため、自らを父親とは位置づけていない点である。しかし、子どもへの対応や接し方、保育内容については女性保育者との違いの重点が置かれ、「男性の視点を強調した保育」が特徴とされている。

特に、山での遊びや飲み会といった活動内容は、女性保育者とは異なる視点を取り入れた男性保育者の視点を重視した活動内容と言えるのではないだろうか。さらに、「パパ祭り」の取り組みや、その取り組み内容である「マジック」「バンド演奏」「ヒーロー劇のシナリオ作り」においては、男性保育者の視点から父親の活躍シーンをイメージし、父親と共に話し合いを重ねることで決定された内容であったと言える。

また、②a「父親たちと共に進めてきた中で感じたのが、男性保育士の重要性です」や、②c「男性だからこそ気軽に話ができ、受け入れてくれることも多く」、また、②f「父親の子育て参加が重要だと言われています。その大切な役割を果たすのが男性保育士なのではないでしょうか」と述べられているように、父親の育児参加を支援する役割として、同性である男性保育者の存在の大切さが強調的に示されている。さらには、②b「女性保育士だけでは恥ずかしさが抜けきらなかった」という父親の言葉から、男性保育者の存在が、父親の育児参加の一助となっていることが把握された。

B保育者のコラムでは、③a～③c、されるように、観点3「子どもの発達を促す者」に関する意識についても把握された。観点3の「子どもの発達を促す者」としての役割は、最終段階の意識レベルに位置付けられており、男性女性という性差にとらわれず、自身を一人の保育者として捉え、「子どもの視点に立ったアドバイスができる」ところが特徴である。ここでは、男性としての性役割意識から脱却し、子どもの発達を促す一人の保育者としての役割意識が把握された。

さらに、B保育者の役割意識から、3つの観点とは異なる特徴を持つ、新たな観点が把握

された。新たな観点は、第4の観点として、(A)～(H)に示した。第4の観点に関する分析については、「(3)第4の観定の把握」において解説を加えることとする。

観定2「保育の偏りを是正する者：男性の視点を強調した保育

「父親が楽しみながら子育て参加へ」B保育者

私が勤務する保育所では、昨年度より、月に一度「パパサークル」というのを開いています(A)。人数は20人で、活動は子ども達のために山へカブトムシの幼虫を探しに行ったり、自由遊びをしたり、飲み会をしたりといろいろ行っています①a③a(B)。その中で企画したのが「パパ祭り」です。ねらいとしては、「父親のかっこいい姿を子どもや母親に観てもらい、父親が輝き、ヒーローになる!」というもの(C)でした。(中略)

話し合いを重ねる中で、「パパ祭り」の内容はマジックショー、バンド演奏、劇の3本に決まりました。その中で劇グループの姿をお伝えします。はじめの話し合いはとても順調で「ヒーローものにすっか!」「決まりポーズも決めんけ!」と決っていきました。しかし、肝心なシナリオ作りになると「難しいことはわからんから先生考えてくれっけ」ということになり、頭を悩ませてシナリオを考えました③b(D)。(中略)

練習を進めていく中で、仕事の関係上父親たちがなかなかそろわないことや、セリフを覚えてもらうことも大変でしたが、何より恥ずかしがる父親達をどのようにしてその気にさせるかが一番難しい悩みでした(E)。またどこかで、父親達に無理やりやらせているのではないかという罪悪感に似た悩みも抱いていました(F)。(中略)

今回、このようにして父親たちと共に進めてきた中で感じたのが、男性保育士の重要性②aです。きっと女性保育士だけでは恥ずかしさが抜けきらなかったと思います②b。また、父親たちだけでも子どもの感じ方がなかなかつかめずに悩むことになったと思います。男性だからこそ気軽に話ができ、受け入れてくれることも多く②c。また、保育士だからこそ子どもの視点に立ったアドバイスができるのだと思います③c。

昨今、父親の子育ての参加が重要だと言われています。その大切な役割を果たすのが男性保育士②d(G)なのではないでしょうか。私は今回の活動を通じて男性保育士はもっともっと増加すべきと改めて感じました、そこから、新しく生まれてくる子育ての形がきっとあると思います(H)。

引用：全国男性保育者連絡会『男性保育者～その実践と資料 NO.5～』から抜粋し、筆者により下線およびカテゴリー番号を付記した。

iii) C保育者のドキュメント分析の結果

C保育者のコラムは、③a～③cに示されるように、観定3「子どもの発達を促す者」に関する役割意識が特徴的に把握された。具体的には、③a「『男性だからできる』」のではなく『自分だからできる』」、③b「男性、女性関係なく一人の保育士としてよい保育を行っていきたい」、③c「今は『男性』にとらわれず」という言葉にも表れているように、C保育者は、父親として、また男性保育者としての性役割意識を超越した一人の保育者として自ら



を定義づけている。

また、観点3「子どもの発達を促す者」は、男性保育者における保育者定義の第三段階に位置づけられており、その特徴は「子どもの発達を促すための働きかけ」である。具体的には、③b「自分自身の人間性や保育の専門性を高め、子ども達一人ひとりの個性や思いを大切に」、に示されているように、保育の主体を子どもに置き、自らを子どもの発達を促す保育者としての役割意識が把握された。

さらにC保育者の役割意識から、観点1から観点3とは異なる特徴を持つ、新たな観点が把握された。新たな観点は第4の観点として、(I)と示した。第4の観点に関する分析は、「(3)第4の観定の把握」において解説する。

### 観点3「子どもの発達を促す者」：子どもの発達を促すための働きかけ

#### 「一人の保育士として」C保育者

(前略)「男性保育士がいれくてよかった」「男の先生に大胆に遊んでもらえて嬉しい」と保護者から声をかけていただいて、喜びを感じることもあります①a。しかし、私は、「男性だからできる」のではなく「自分だからできる」②a。男性、女性関係なく一人の保育士としてよい保育を行っていきたいと思います②b。女性と男性の本質的な違いや、父親の育児参加が求められる今、男性保育士がこどもの良い関わり方や必要性を示し、実践していくことで育児参加を促していくなど、男性だからできることもあると思います②a(I)。「男性だから」という周りの期待にプレッシャーを感じることもあります①bが、今は「男性」にとらわれず、自分自身の人間性や保育の専門性を高め、子ども達一人一人の個性や思いを大切に自尊心を育ていける笑顔あふれる保育を行っていききたいです②c。そしてその中で、男性としての良さ、特性を活かして行きたいと思います②b。(後略)

引用：全国男性保育者連絡会『男性保育者～その実践と資料 NO.5～』から抜粋し、筆者により下線およびカテゴリー番号を付記した。

#### iv) D保育者のドキュメント分析の結果

D保育者のコラムは、(J)～(M)に示されるように、第4の観点が把握された。D保育者のコラムは、経営者という視点から男性保育者について述べている。D保育者は、(J)「保育園とは社会の縮図。老若男女、バランスよくいることが当然の姿」として捉え、(K)「子ども達や家庭には男性による保育や育児を当たり前と感じてもらうことをねらいとしている」と述べている。こうした男性保育者の役割意識のもと保育施設の中に自然に男性が存在し、あたりまえに乳児に触れ、育児に従事する姿には、性役割意識から解放されたジェンダーモデルとしての男性保育者の存在価値を見出すことができた。

観点4：新たに把握された男性保育者の段階

「経営者から見た男性保育者」D保育者

(前略)私は常々「保育園とは社会の縮図。老若男女、バランスよくいることが当然の姿(J)」と考えていますので(中略)0歳・1歳・2歳・3～5歳・フリーと、男性保育士はばらけるように配置をしています。クラスという単位の中に男女が備えることにより、子ども達や家庭には男性による保育や育児を当たり前と感じてもらうことをねらいとしています(K)。(中略)保育園という社会の縮図の中に存在する「男性」が果たすことができる役割は小さくない(L)と思います。(中略)

これから就職したり、保育を目指したりする男性のためにも、家庭の中でどのように子どもと向き合っているのかかわからない父親のためにも「育児における男性の存在価値(M)」を日々の保育実践の中で思う存分見つけてやりましょう。

引用：全国男性保育者連絡会『男性保育者～その実践と資料 NO.5～』から抜粋し、筆者により下線およびカテゴリ番号を付記した。

(3) 第4の観点の把握に関する結果及び考察

本研究において抽出された4つのコラムの内容についてドキュメント分析を行い、男性保育者に内在する役割意識について検討を行った結果、先行研究により把握された3つの観点とは異なる、第4の観点として(A)～(M)が析出された。

第4の観点は、男性保育者としての存在自体に価値をもたせ、子育てに携わる自然な存在として男性保育者を位置づけているところが特徴的である。第4の観点において男性保育者は、観点1及び観点2に示されたような男性保育者としての役割を周囲から期待されていることを受け止め、新たな観点3として、男性保育者でなければならない「価値」に気づき、積極的にその役割を担う男性保育者の姿がここにある。

具体的には、(I)「父親の育児参加が求められる今、男性保育士がこどもとの良い関わり方や必要性を示し、実践していくことで育児参加を促していくなど、男性だからできることもあると思います」、(G)「父親の子育ての参加が重要だと言われています。その大切な役割を果たすのが男性保育士なのは」、(H)「男性保育士はもっともっと増加すべきと改めて感じました、そこから、新しく生まれてくる子育ての形がきっとあると思います」と述べられているように、男性保育者自身が、父親の育児支援のキーパーソンとして自覚し、子育て支援を担っていこうとする役割意識が明らかとなった。

以上のことから、新たに把握された第4の観点を、観点3として再構成し、新たな観点3を「性役割意識から脱却する育児モデル：新たな価値の提供」と定義することとした。新たな観点を加えた、男性保育者の段階的变化については以下に示した通りである。

観点1「第二の家庭の父母」：身体を使う保育

観点2「保育の偏りを是正する者：男性の視点を強調した保育

観点3「性役割意識から脱却する育児モデル：新たな価値の提供」

観点4「子どもの発達を促す者」:子どもの発達を促すための働きかけ

観点3に示した「新たな価値の提供」の役割を内在する男性保育者の姿は、父親の育児モデルとなり、男性保育者の姿を自らの育児イメージと重ね、父親が育児を身近に感じることで育児への関心を深めることができるのではないだろうか。また、男性保育者の存在が自然なことになるためには、周りで働く女性の保育者や母親の性役割意識の解放が不可欠である。男性保育者を中心に、全ての人が性役割意識促進につながると考える。

#### (4) 保育施設における子育て支援を支える男性保育者の役割モデル

これまでの分析結果により把握された男性保育者の役割に関する4つの観点を構成要素として、子育て支援を支える男性保育者の役割モデルの構築を試みた。構築された役割モデルについては、図式化し図2に示した。

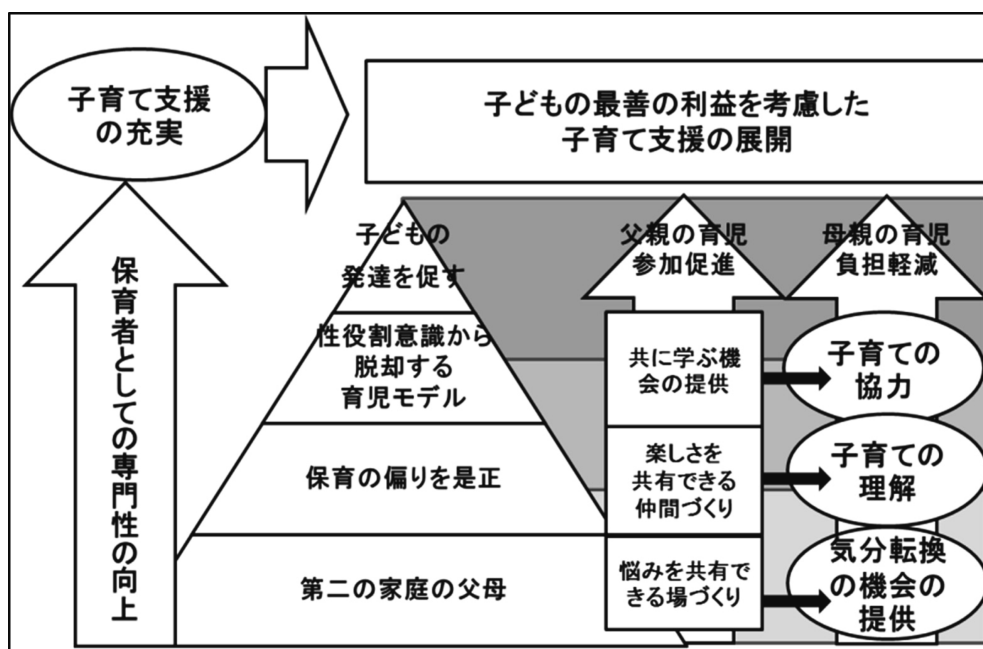


図2 子育て支援を支える男性保育者の役割モデル

以上のことから、男性保育者の役割に関する新たな観点として、「性役割意識から脱却する育児モデルとしての役割」を付加し、子育て支援を支える男性保育者の役割として、4つの観点が明らかとなった。

図2に示したように、男性保育者を中核とした子育て支援を通して、父親の育児参加が促進することは、同時に母親の育児負担を軽減させることにも繋がるであろう。男性保育者が第二の父親としての役割を担う姿に触れることで、育児参加第一段階の父親は、男性保育者

に共感的な感情を抱くのではないだろうか。父親は親しみを感じる男性保育者の存在によって、子育てに関連する苦労を言葉にする場を持つことができる。そうすることで、他の父親に触れ、父親たちが抱えている様々な問題、子育ての苦労を共有することが父親の育児参加のスタートとなる。

また、第二段階として、男性保育者の支援により、父親が保育施設の中で自分の思いを「語る」場を持ち、互いの思いを共有することができると思う。そうした、子育てを通してつながった仲間と共に子育ての楽しさについて共有できる場をもつことで、子育てに対する関心が深まり、育児参加の機会がつけられる。

さらに、第三段階として男性保育者の存在が、父親の性役割意識に対して新たな価値を提供し、父親が育児に参加することが自然な営みとして意識化されることを期待する。ジェンダーモデルとしての男性保育者の存在は、母親に対する性役割意識の解放にもつながり、夫婦が共同で育児に従事する機会が増えることにより、夫婦で共有できる話題が生まれ、孤立する母親への支援となる。

最後に、第四段階として、子育てに関する様々な情取得し、知識を学ぶことで男性としての子育て意識への変容が期待される。こうして、男性保育者における適切な働きかけを通して充実した子育て支援を展開することが可能となる。

## V. 総合考察

本研究を通して男性保育者の役割として、第4の視点を把握することができた。想定された4つの役割は段階的に獲得されるものであり、父親の育児支援を支える専門性の向上への視座となるものとする。こうした、男性保育者の専門的な支援及び、適切な指導により、子どもの最善の利益を考慮した保育施設における子育て支援が進められるものとする。さらに、男性保育者の役割意識の向上が、今度の子育て家庭における支援の充実につながると言えるのではないだろうか。

本研究によって、仕事と家庭の両立支援を支える新たな視点として男性保育者の可能性を顕在化させ、保育実践者の視点からみた子育て支援の方向性に示唆を与えることができたと思う。今後は、男性保育者が子育て家庭における親の育児不安に与える影響についても研究を深め、保育施設を拠点とした子育て支援モデルの構築を目指したい。

**【注】**

注1) 雇用均等基本調査「平成26年度雇用均等基本調査」2014年度, 調査結果の概要 (PDF)。

入手先 (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-26r-03.pdf>) (参照日: 2015-11-06)

注2) 厚生労働省, 平成22年6月17日発表, 「父親の家事・育児関連時間」

入手先

([http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/ikumen\\_shiryoudl/ikumen\\_sankou\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/ikumen_shiryoudl/ikumen_sankou_01.pdf))

(参照日: 2015-11-06)

**【引用・参考文献】**

1) 中田奈月・前迫ゆり・智原江美・石田慎二・高岡昌子・福田公教「奈良佐保保育所における男性保士の実態と課題」奈良佐保短期大学紀要, 第12号, pp56-57, 2004。

2) 中田奈月・前迫ゆり・智原江美他「同上論文」, p.59-69, 2004。

3) 東京男性保育者連絡会世話人会編「男性保育者～その実践と資料 NO.5～」全国男性保育者連絡会, 2011。

4) 中田奈月・前迫ゆり・智原江美他「前掲論文」, p.45-46, 2004。

5) 柏まり・佐藤和順「父親の育児参加を支える男性保育者の役割に関する基礎的研究」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版) 第59巻, p.142, 2014。